

社会科の学びの本質に迫るICTの活用

「社会的な『見方・考え方』を働かせる」ために

- ① 「問い」の共有…「なぜだろう」「どうしたらいいだろう」
- ICT: 協働学習支援ツールを用いた資料送付
大型提示装置による事象提示
協働学習支援ツールによる「問い」「予想」の共有
- ② 必然性を生み出す仕掛けづくり…「視点別に、比べると…」
- ICT: 思考ツールを用いた思考の整理 (個別最適な学び)

【POINT】 問いや予想の共有

気付いたこと、不思議に思ったこと、問いについての予想等を端末上に書き込み、クラウド上で共有する。



【POINT】 端末上の思考ツールを用いて、視点に沿って、比べ、分類し、関連付けて考える。



- ・リボンチャートで事実を視点ごとに分類し、整理する。
- ・結びつきを掴む。



- ・マトリクス表で考えを視点ごとに分類し、整理する。
- ・視点を入れ替えて考える。

「根拠や理由を明確にして論理的に考えたり、説明したりする」ために

- ① 根拠や理由は、事実に基づいているか。
- ICT: インターネットによる情報収集
Web サイト (URL) の提示、検索ワードの例示
- ② 事実と主張 (考え) は、飛躍なく結びついているか。
- ICT: 端末を用いた個の考えづくりと共同追究による検証

【POINT】 確かな事実の獲得

- ・ Web サイト (URL) の提示
公官庁、学習用サイト等
- ・ 検索ワードを例示する。

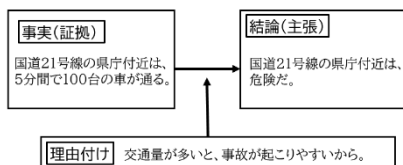
【POINT】 端末上で「根拠や理由を明確にして考えをまとめる図」を操作して、考えづくり・検証

個

- ・ 端末上に図を示し、操作しながら考える。
- ・ 事実から考えられること (意見) を明らかにする。

協働

- ・ なぜそう考えたのか (根拠) を明らかにする。
- ・ 事実、意見、理由・根拠のつながりを見直す。



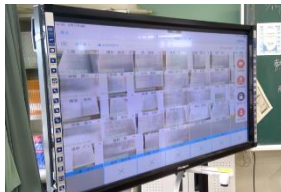
クラウド共有 端末を示す。
繰り返し追記、編集する。



「多面的・多角的に考察する」ために

- ① 対話的な学び、考えの共有
- ICT: 思考ツールと協働学習支援ツール (共有) を用いた共同追究 (対話的な学び)

【POINT】 共有機能を活用した共同追究



- ・ 共有 (同時) 編集機能を活用する。
- ・ クラウドや大型提示装置で、思考ツールやノートの記述を共有する。
- ・ 互いの考え (立場、見方・考え方) を出し合い、議論を深める。

ICTを効果的に活用した教材開発の例（小学校）

活用：アンケート機能を活用した実態把握

【社会的事象への関心、利用頻度、学習前の考えなどに関する実態把握（単元導入時）】

単元の導入時、または、単元導入前に、社会的事象への関心、利用頻度、学習前の考えなどに関する児童の実態について、アンケート機能を使って把握する。これにより、教材開発に関わって以下の3点が期待できる。

- (1) 即時グラフ化できることで、それを基に児童の考えを広げ、深めることができる。
- (2) 結果を基に、単元の核となる授業を選び出したり、発問を吟味したりすることができる。
- (3) 自由記述を基に、「〇年〇組調べ」といった自作資料を作成することができる。

アンケートの作成

第3学年「店ではたらく人」
自分の家の近い物の様子を書いて答えましょう。

あなたは（あなたの家では）週に何回買い物に行きますか？*

- 1回
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 分からない

あなたは（あなたの家では）どの店に買い物に行きますか？*

- A店
- B店
- C店
- D店
- 分からない
- その他...

単元に関わる実態についてアンケートを活用して把握する。

アンケートの結果の活用

あなたは（あなたの家では）週に何回買い物に行きますか？
11名の回答

回数	割合
1回	27.3%
2回	27.3%
3回	9.1%
4回	9.1%
5回	9.1%
6回	9.1%
7回	9.1%
分からない	0%

あなたは（あなたの家では）どうしてその店に買い物に行くのですか？
11名の回答

理由	人数	割合
家から近いから	8	72.7%
はたらくところから	5	45.5%
はたらく人から	7	63.6%
店が大きいから	11	100%
しんぼんだから	9	81.8%
ちやうど距離が近いから	4	36.4%
店のそばに他の店があるから	2	18.2%
車で行っているから	0	0%
子供用のカードが売っているから	1	9.1%
ポイントカードを持っているから	1	9.1%
夜遅くまでやっているから	1	9.1%
タイムセールをしているから	1	9.1%
車を走らせてくれるから	1	9.1%

結果をその場で示し、共有できる。それを基に考えを広げ、深めることができる。表し方を変えることで、自作資料として活用できる。

【児童の既習内容の定着状況（単元導入時）】

単元の導入時、または、既習内容の定着状況に関する児童の実態について、アンケート機能を使って把握する。これにより、教材開発に関わって以下の2点が期待できる。

- (1) アンケート機能を使って既習内容（知識）に関わる問題を出題することで、単元に関わる学習内容の定着度を把握し、単元構成や指導方法を工夫することができる。
- (2) アンケート機能を使って社会的事象等を調べ、まとめる技能に関わる問題を出題することで、単元で提示する資料について、児童の実態に合わせた難易度に設定したり、指導・援助を工夫したりすることができる。

第4学年「わたしたちの県」

第4学年「わたしたちの県」
合計 50/50人

これから始まる学習の前に、前の学習の様子をふりかえっていきましょう。

✓ 地図の横にあるわくの方位を答えましょう。 *10/10

北
南
東
西

即時評価

第4学年「わたしたちの県」

地図の横にあるわくの方位を答えましょう。
回答 11人

方位	人数	割合
北	0	0%
南	1	9.1%
東	5	45.5%
西	1	9.1%

全体の傾向や一人一人の実態を把握することで、単元構成、一人一人に応じた指導・援助を工夫することができる。